

十二月十九日までの分は『東京美術学校校友会月報』第二卷第二号（第七号（同三十六年十一月）同三十七年五月）に掲載された。

③ 各科の授業内容

本校における授業の概要が正式に公表されたのは明治三十五年十二月発行の『東京美術学校一覽』（明治三十五年）においてであり、それ以前にはこのような記録は無い。以下、その全文を掲載する。

各科授業要旨

各科授業ノ要旨ハ茲ニ之ヲ述ブルト雖素ヨリ其大要ヲ記スルニ過ギズ 假令之ヲ細説スルモ實況ヲ見ルニアラズンバ隔靴搔癢ノ感アルヲ免レザルナリ 故ニ詳細ヲ知ラントスルモノハ各科教室ニ於ケル授業ノ實況ヲ視察シ又生徒ノ成績ニ考慮シ之ヲ會得スルノ外ナキナリ 而シテ茲ニ一言シ置クベキハ本校生徒教養ノ効果ナリ蓋シ藝術ハ修身ノ業ニシテ僅々數年ノ修業ヲ以テ能ク其効果ヲ收メントスルノ爲シ易カラザル事ハ何人モ知ル所タリ 殊ニ名家鉅匠トシテ聲譽ヲ後昆ニ傳フルガ如キハ自ら天稟ノ才能ト拔群ノ技倆トヲ有スルモノニ非ザルヨリハ得テ望ムベカラザル事ニ屬ス 然レドモ人各所長ノ在ルアリ 好尚ノ存スルアリ 故ニ本校教授ノ要旨ハ成ルベク其人ノ長ズル所ニ副ヒテ之ヲ發展進歩セシムルニ務ムト雖之ヲ約言スレバ本校ハ僅ニ五ヶ年ヲ以テ卒業スル規定ナルヲ以テ茲ニ卒業ト稱スルハ唯技術上ノ端緒ト之ニ適切ナル學科トヲ修得シタルニ過ギズ 藝術ノ大成ノ如キハ各自ガ本校ニ在テ修得シタル素養ニ依リ尙精進不退轉ノ修練ニ埃ツノ外ナキナ

リ

豫備ノ課程

豫備ノ課程ハ甲乙ノ二種ニ分チ甲種ヲ日本畫科、西洋畫科、圖按科、漆工科ノ志望者トシ乙種ヲ彫刻科、彫金科、鍛金科、鑄金科ノ志望者トシ其實技ハ甲種ニハ繪畫及志望科ノ實技ヲ、乙種ニハ繪畫及彫塑ヲ課シ並ニ志望科ノ實技ヲ各其教室ニ就キテ學修セシム

日本畫科

日本畫科ノ教室ハ五アリテ毛筆畫ヲ教フ 其授業ヲ分チテ臨畫、寫生、新按ノ三トナシ別ニ郊外寫生ヲナサシム 又其學識ヲ養フ爲ニ特ニ課スル學科ヲ用器畫法及美術解剖トス 臨畫ハ本校教授ノ畫キタルモノ及古來名家ノ筆蹟ニ係ルモノ、簡易ナルモノヨリ漸次複雑ナルモノニ移リ主トシテ其着想並ニ運筆ノ法ヲ修得セシム 豫備ノ課程ヨリ本科三年マデ之ヲ課ス

寫生ハ初メ草木花實ヲ以テシ次デ蟲魚禽獸ヲ教室ニ致シ或ハ動物園ニ就キテ之ヲ寫サシム 其技ノ漸ク熟スルニ及ビ生人ノもでるニ及ボシ本邦古來ノ甲冑ヲ著セシメ或ハ裝束ヲ爲サシメ若クハ當世ノ服裝ヲ寫サシメ以テ有職故實ノ實修ト傳彩配色ノ手法ト物象ヲ正確ニ描寫スル法トヲ教フ 是亦豫備ノ課程ヨリ本科三年マデ之ヲ課シ又別ニ陰影ヲ實寫スル練習ノ爲メニ一學年間毛筆畫時間ヲ割キテ木炭畫ヲ修メシム 新按ハ既ニ學修シタル臨畫及寫生ノ力ヲ應用シ課題ニ依リテ各自ノ意匠ヲ須キテ新作セシムルモノニシテ本科第一年ヨリ第四年マデ之ヲ課ス 殊ニ第四年ニ於テハ臨畫寫生ヲ課セズ主トシテ力ヲ之ニ注ガシメ又其間ニ於テ卒業製作ヲナサシム

郊外寫生ハ教員ニ於テ其日ト場所トヲ撰ビテ生徒ヲ引率シ又ハ隨意ニ生徒ヲシテ隨處ニ其風景ヲ寫生セシメ成績ヲ徵ス

西洋畫科

西洋畫科ニハ木炭畫教室、油畫教室四アリテ木炭畫及油畫ヲ教授シ別ニ郊外寫生ヲナサシム 特ニ課スル學科ヲ用器畫法及美術解剖トス 木炭畫教室ニテハ他日彫刻科、鍍金科、鑄金科ニ入ルベキ豫備ノ課程生徒、豫備ノ課程ニ於ケル西洋畫科志望者及西洋畫科第一年生ノ油畫ヲ學ブノ楷梯トシテ木炭ヲ以テ素描ヲ教フル所ナリ 初メハ寫眞粉本等ニ就キテ習ハシメ其技ノ進ムニ從ヒテ石膏製ノ人首ヨリ全身ノ模型ヲ寫サシム

油畫教室ハ第二年生以上ニ油畫ヲ教フル所ニシテ學年ニ依リテ差異ヲ立テズ常ニ生人ノもでるニ就キテ描寫セシメ午後ヨリハ出デ、近郊ノ風景ヲ寫サシメ其成績ヲ徵ス 第四年卒業期ニ至リテハ別ニ自畫肖像ヲ作ラシム

圖按科

圖按科ハ二ノ教室アリテ各種工藝圖按及建築裝飾圖按ヲ學修セシムル所トス 而シテ此科ノ實習ヲ分チテ圖按實習、繪畫、彫塑トシ又圖按ニ關スル學識ヲ養フガ爲各學年ニ配當シテ圖按法、建築裝飾法、建築裝飾史、用器畫法、各種工藝品製作法ノ講義ヲ課ス 圖按實習ハ内外各時代ノ工藝及裝飾圖按ノ様式ヲ教ヘ之ニ由リテ新按セシムルモノニシテ平常各時代ノ形式、模様、配色等ヲ知ラシメ或ハ動植物ヲ寫生セシメ之ヲ模様化シテ各種ノ圖按ヲ新作セシム 第四年ニ至リテ卒業製作ヲナサシムルコト他科ニ同シ 繪畫ハ毛筆畫、水彩畫、木炭畫トシ毛筆畫、水彩畫ニ於テハ古今

名家ノ作品ヲ臨寫セシメ並ニ花卉禽獸及有職故實ニ關スル衣冠器具ヲ寫生セシメ以テ傳彩配色ノ法ヲ教ヘ木炭畫ニ於テハ石膏製ノ標本ヲ用キテ内外各時代ノ建築裝飾及動物人體等ヲ描寫セシメ以テ物體ノ高低陰影ヲ現ハスノ法ヲ教ヘ而シテ又其間ニ於テ繪畫ノ新作ヲ爲サシム

彫刻科

彫刻科ニハ七ノ教室アリ 即チ塑造教室四、木彫教室一、牙角彫刻教室一、石彫教室一ニシテ塑造及實材製作ヲ教フル所トシ石膏製作室ヲ付設ス

塑造トハ塑土(原名プラスチック)ヲ以テ物形ヲ作ルノ謂ニシテ豫備ノ課程ヨリ本科第四年ニ至ル迄皆之ニ由リテ彫刻ノ術ヲ教フ 其初メハ石膏製薄肉ノ裝飾物及動植物ノ手本ヲ與ヘテ之ヲ摸セシメ技倆漸ク進ムニ從ヒテ動物人首等ニ移ラシメ本科第一年以上ハ禽獸ヲ教室ニ致シ又ハ動物園ニ就テ寫生セシメ漸次生人ノもでるニ依リテ諸種ノ服裝態度ヲナサシメ其形ヲ寫サシムルモノトス 又別設ノ石膏室ニ於テハ石膏型ヲ造ルノ方法ヲ教フルト共ニ自ラ塑土ノ作品ヲ石膏型ニ移サシム 第四年ニ至リテ卒業製作ヲナサシムルコト他科ニ同シ

實材製作ハ木彫、牙角彫刻、石彫、鑄金ノ四トナシ豫備ノ課程ヨリ第四年マデ各自ノ志望ニヨリテ其一ヲ撰ビ當該教室ニ就キ塑造ノ外ニ於テ學修セシムルモノニシテ古作品又ハ教師ノ作品ヲ摸セシメ或ハ自己ノ意匠ヲ以テ作ラシメ若クハ塑造ノ成品ヲ實材ニ移

スノ手法ヲ教フルモノトス

彫金科

彫金科ニハ二ノ教室アリテ輔場ヲ付設ス 鑿ヲ用キテ諸金屬ニ彫刻スル術ヲ教フル所ニシテ傍ラ鍛金、塑造ヲ學修セシム 特ニ課スル學科ハ應用化學、合金法、美術解剖ナリ

彫金ヲ教フルニハ最初ハ鑿ノ用法ヨリス 即チ豫備ノ課程ニアリテハ手本ヲ與ヘテ直線曲線ノ刻法ヨリ次デ之ヲ應用シ各自ノ考按ヲ以テ紋様等ヲ刻セシメ技倆漸ク進ムニ從ヒ片切ノ彫法、鏤金ノ手法、全彫ノ作法等ヲ教ヘ時ニ題ヲ與ヘテ摸刻ノ外新按ヲ作サシム 其第四年ニ至リテ卒業製作ヲナサシムルコト他科ニ同シ

鍛金ハ彫金ノ技ヲ助ケンガ爲銅鐵ヲ以テ物形ヲ作ルノ法ヲ學修セシムルモノニシテ彫金實習時間ヲ割キテ之ニ充テ鍛金科教室ニ就キテ學バシム

塑造ハ粘土ヲ以テ禽獸虫魚人物等ノ原型ヲ作ルノ法ヲ學修セシムルモノニシテ彫金實習時間ヲ割キテ工藝科ノ爲ニ別ニ設クル所ノ塑造教室ニ於テ之ヲ課ス

鍛金科

鍛金科ニハ鍛金教室ノ外ニ鍛金工場ヲ附設ス 而シテ鍛金實習ノ傍ラ彫金及塑造ヲ學バシム 又特ニ應用化學、合金法、美術解剖ヲ課スル彫金科ニ同シ

鍛金實習ハ其初メ銅鐵ヲ錘打シテ簡單ナル器物ヲ作ルノ法ヲ教ヘ其技漸ク進ムニ從ヒテ水滴花瓶香爐ノ類ヨリ禽獸蟲魚ヲ作ルコトヲ學修セシム 其第四年ニ至リテ卒業製作ヲナサシムルコト他科ニ同シ

彫金實習ハ彫金科ノ鍛金ニ於ケルガ如ク鍛金ノ技ヲ助ケンガ爲ニ鍛金實習ノ時間ヲ割キテ金屬彫刻ヲ學バシム

塑造ハ鍛金實習ノ時間ヲ割キテ課スルモノニシテ彫金科ニ同シ

鑄金科

鑄金科ニハ鑄液及蠟型教室一、傳色教室一、鑄金工場一アリテ別ニ塑造ヲ課ス 又特ニ鑄金術、應用化學、機械工學大意、合金法、美術解剖ヲ課ス

鑄金實習トハ塑造又ハ蠟型ニテ作りタル器物室内裝飾品彫像等ノ鑄造原型ヲ作ル方法ヨリ之ヲ鑄成シテ傳色スル術ヲ教フルナリ 初メハ手本ニ因リテ簡單ナル薄肉半肉ノ手板又ハ額面ヨリ漸次其技ノ熟スルニ從ヒ各自ノ新作セル筆筒香爐花瓶ノ類ヲ造ラシメ又寫生シタル鳥獸人物等ヲ鑄成セシム 第四年ニ至リテ卒業製作ヲナサシムルコト他科ニ同シ

蠟型ハ蠟ヲ以テ鑄造ノ原型ヲ作ルコトヲ教ヘ塑造ハ彫金科ニ同シク別設ノ塑造教室ニ於テ原型ヲ作ルコトヲ學バシム

今茲ニ鑄金ノ順序ヲ略説スレバ手本ニ由リ又ハ寫生新按ヲ以テ蠟若クハ粘土ニテ物形ヲ作ルヤ之ヲ鑄金工場ニ致シテ牝型及中子ヲ作り次キニ溶銅ヲ注入シ而ル後其鑄型ヲ毀チ鑄成シタルモノハ鑄液教室ニ於テ仕上ゲヲ爲ス 了レバ則チ傳色教室ニ入りテ適宜ニ傳色ヲ爲シ是ニ於テ初メテ成品ヲ見ルヲ得ルナリ

漆工科

漆工科ニハ三ノ蒔繪教室ト二ノ調漆教室トアリテ主トシテ描金ノ術ヲ教ヘ並ニ漆器ノ塗リ方ヲ學修セシム 特ニ課スル學科ハ漆器製作大意、應用化學ナリ

蒔繪實習ハ平蒔繪、研出シヨリ高蒔繪、素地蒔繪等簡易ナルモノヨリ次第ヲ追ヒテ教フルモノニシテ初メハ手板ニテ習ハシメ漸次其技ノ熟スルニ從ヒ盆菓子器其他ノ器物ニ就キテ學修セシム又此時間中ニ於テ題ニ依リ或ハ實物ニ就キテ作品ノ價格ヲ見積ル練習ヲナサシム

調漆實習ハ蠟色其他種々ノ色調ヲ以テスル髹漆ノ方法及變リ塗り等ヲ教フルモノニシテ蒔繪實習時間ヲ割キテ之ヲ學バシム

繪畫及圖按實習ハ繪畫ノ力ヲ養ヒ並ニ漆工ニ必要ナル圖按ヲ學習セシムルモノニシテ圖按科教室ニ就キ日本畫ヲ以テ之ヲ課ス

圖畫教員タルノ課程

中學校、師範學校、高等女學校ノ圖畫教員タラントスル者ノ爲ニ設クル所ニシテ日本畫科、西洋畫科、圖案科生徒中志願ノモノニ之ヲ課シ各第四年ニ於テ教育學、教授法、用器畫法ヲ學修セシメ又日本畫科、圖按科ノモノニハ別ニ設クル所ノ教室ニ於テ木炭畫ヲ學バシム

實業教員ノ養成

此課程ハ各種實業學校ノ教員タルベキモノヲ養成スルヲ以テ目的トシ日本畫、西洋畫ヲ除キタル他ノ各科學徒中志願ニ依リ最終ノ學年ニ於テ教育學、教授法ヲ課スルモノニシテ相當ノ人員ヲ限リ實業學校教員養成規程ニ依リテ一ヶ月金六圓以内ノ學資ヲ補給スルノ途アリ

圖畫講習科

圖畫講習生ノ履習スベキ學科目ハ圖畫又ハ之ニ關スル學科ニ限り各自ノ志望ト學力トニ依リ本校ニ於テ之ヲ定ムル者ニシテ圖畫ノ

程度ハ本科第一年第二年ニ準ズ 其在學年限ハ一ヶ年以上二ヶ年以内ナリ

研究科

研究科ハ各科學業生ニシテ尙其實技ヲ研鑽セントスルモノ、爲ニ設クル所ニシテ其學修科目ハ各自ニ於テ撰擇スルモノナレバ豫メ之ガ順序ヲ立テズ 要ハ研究ノ實ヲ舉グルニアルノミ 在學年限ハ三ヶ年以内トス

撰科

撰科ハ本科生ノ不足ヲ補フガ爲入學セシムルモノト本科生ニシテ身體羸弱所定ノ正科ヲ履修スルニ耐ヘザルモノ、轉入ヲ許スモノトノ二種トシ各科ノ實技中其一ヲ撰ヒテ學修セシム 此科ニ入學ヲ許スヘキモノハ豫備ノ課程修了以上ノ實技ノ力ヲ有スルモノトシ其修業年限ヲ四ヶ年トス

各科ニ於ケル講授學科

美術上ノ智識ヲ深邃ナラシメ志想ヲ高尚ナラシムル學科ヲ各科學徒一般ニ講授シ或ハ一部ノ生徒ニ限リテ之ヲ授ク 即チ前記各科學科ニ特設セルモノ、外各學年ニ配當シテ一般ノ生徒ニ通シ課スル所ノ學科ハ外國語、支那歷史、東洋美術史、西洋美術史、美學、東洋考古學、西洋考古學等ナリ 而シテ是等ノ學科ヲ講授スルニ方リテハ豫メ實物ニ接シタル場合ノ鑒識ヲ養ハンガ爲ニ或ハ現物ヲ以テシ或ハ寫眞圖畫ニ依リ或ハ博物館ニ生徒ヲ伴ヒ若クハ幻燈ニ由リテ説明シ以テ之ヲ會得セシム 其各學科ノ各學年配當及時數等ハ本校規則ニ登載シアルヲ以テ茲ニハ之ヲ畧ス